

科学研究費助成事業 研究成果報告書

平成 26 年 4 月 20 日現在

機関番号：15301

研究種目：基盤研究(C)

研究期間：2011～2013

課題番号：23520911

研究課題名(和文) マザリナードと論争研究 歴史社会学と文学社会学の境界領域研究

研究課題名(英文) Mazarinades and study of controversy - a frontier study for social history and sociology of literature

研究代表者

野呂 康(Noro, Yasushi)

岡山大学・その他部局等・准教授

研究者番号：70468817

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 4,000,000円、(間接経費) 1,200,000円

研究成果の概要(和文)：本研究は三年間の継続研究として企画され、本年度はその最終年度にあたる。申請時には、全体の研究計画として次の五段階を設定した。1.東京大学附属図書館所蔵マザリナード・コレクションの紹介と列挙、2.テーマ別分類表の作成、3.欠落文書の探索、4.比較検討、5.政治史、論争史、社会史等の研究者との意見交換と共同の研究会の組織。初年度には初期ジャンセニスム運動における論争文書リストを作成した。二年目には特に論争文書を中心に比較検討を行い、フランスの大学及び研究機関にて3回の招聘講演を行った。最終年度では、海外研究者の招聘を実現し、論争および歴史記述に関する講演会及び国際シンポジウムを開催した。

研究成果の概要(英文)：This study was planned as a continuation of three years research. This year falls on the final year. The whole of research consisted of five steps. 1. Enumeration and introduction of the Mazarinades collection conserved at University of Tokyo ; 2. Creation of thematic classification ; 3. the search for missing documents ; 4. Comparison of pamphlets ; 5. Organization of research collaboration and exchanging opinions with specialists of Political history, Debate history and Social history. I had created controversy list of Jansenism movement in the first year. I conducted a comparative study especially in the second year. I was invited and went to France for three conferences. In the final year, I invited foreign researchers of universities and research institutes from France and held two international symposiums and a conference on the description of history and controversy.

研究分野：人文学

科研費の分科・細目：史学 ヨーロッパ史・アメリカ史

キーワード：論争 フロンド マザリナード ジャンセニスム 歴史記述 パンフレ 国際研究者交流 国際情報交流

科学研究費助成事業 研究成果報告書

1. 研究開始当初の背景

本研究は、近世フランスにおける出版メディア史上の二大事件、「フロンド」とジャンセニスム運動に関して、論争文書を手掛かりとして歴史認識を深めることを主眼としていた。研究の過程で、日本に所蔵された貴重な文書を世界に向けて発信し、共同研究を呼びかける必要があった。また、フロンドに関する歴史研究とジャンセニスム研究という研究蓄積の豊富な両テーマを融合させた研究は存在しておらず、独自の発想に基づいた境界研究を目指したのも本研究の特徴である。

2. 研究の目的

当時の論争文書の流通とメディアの在り方に焦点をあて、文学社会学及び歴史社会学の境界領域研究として新しい研究領域と方法の開拓を目的に掲げた。

3. 研究の方法

まず、東京大学総合図書館や一橋大学社会科学古典資料センターに保存された論争文書を整理し、それに関心を持つ日本内外の研究者に提示しつつ情報を共有し、研究会を組織してから、シンポジウムや講演会を通じて大学や研究機関外にも知識を還元することを目指した。

4. 研究成果

論争文書をテーマごとに検索・調査できるようリストを作成し、それに基づいてフランスの大学と研究機関で3回、日本の大学と研究機関で4回の発表と講演を行い、質疑応答などのリアクションを得た。その過程で本研究に関心を示した国内外の研究者と共同で研究会を組織し、フランスからも専門家を招聘するなどして知識の深化と還元に努め、最終的には2回の国際シンポジウムと1回の講

演会を開催することができた。

これまでは論争文書や、映画や文学における論争といったテーマを限定した研究を推進してきたが、今後はより広い視点から、虚構を前提とした文学の記述一般を対象とし、社会学や歴史学といった隣接領域の研究者との共同研究を組織してゆきたい。

本プロジェクトの全体を眺め、研究の成果を具体的に列挙すれば、以下の通りである。

フランスからニコラ・シャピラ准教授（マルヌ・ラ・ヴァレ大学）とダイナ・リバル准教授（社会科学高等研究院）を招聘し、森本淳生准教授（一橋大学）、中畑寛之准教授（神戸大学）、辻川慶子准教授（白百合女子大学）他の協力を得て、以下の国際シンポジウムを開催した。

「文学・証言・生表象 文学研究と歴史記述研究の対話」(2013年9月28日、一橋大学における国際シンポジウム)

フランス社会科学高等研究院からクリスチアン・ジュオー研究指導官（教授に相当）を招聘し、講演会を開催した。

「バロック」概念をめぐって 論争の賭け金、政治の目論見(2013年9月27日、岡山大学における講演)

フランスからニコラ・シャピラ准教授、ダイナ・リバル准教授、クリスチアン・ジュオー研究指導官を招聘し、中畑寛之准教授（神戸大学）および杉浦順子・嶋中博章両氏（非常勤講師）の協力を得て、以下の国際シンポジウムを開催した。

「書物の歴史」から「書物による歴史」へ
(2013年9月23日の神戸大学における国際
シンポジウム)

本研究計画開始時から二年間の成果を以
下の形態で計4回にわたり、日本語で発表し
た。

「フランスにおける『アウグスチヌス』の
再版と『頻繁なる聖体拝領』の出版」(2013
年11月16日、パスカル研究会(於大阪大
学)にて)

「歴史を記述し、伝えること 『覚書(メモ
ワール)』の行為と作用」(2013年10月20
日、羽田正科研(「ユーラシアの近代と新し
い世界史叙述」)第4回「翻訳」研究会「史
料を行為と作用から見る」にて)

「テキストの作用 -フランス17世紀の出版
免許状」(2013年6月15日岡山大学文学部
ヨーロッパ言語文化研究会、岡山大学)

「歴史記述の行為と作用 テキストの
作用と伝承」(2013年5月11日クリスチア
ン・ジュオー『歴史とエクリチュール』『マ
ザリナード』読書会(羽田正科研) 東京大
学史料編纂所)

本研究計画開始時から二年間の成果を以
下の形態で計3回、フランス語で発表した。
すべて招待講演であった。

« La réimpression de l'*Augustinus* et la
publication de *De la fréquente communion*
»(2013年03月12日, Groupe de recherches
interdisciplinaires sur l'Histoire du
littéraire (招待講演) Université Paris III
Centre Censier, 13 rue Santeuil, salle 410)

« La polémique janséniste à l'âge
classique : Problèmes et Méthode »(2013年
03月19日, Ecole des Hautes Etudes en
Sciences Sociales (招待講演) Ecole des
Hautes Etudes en Sciences Sociales
Séminaire de Ch.Jouhaud et D. Ribard)

« Apres les premières luttes jansénistes :
controverses »(2013年03月21日, 特別講演
(招待講演) Centre d'Anthropologie
Religieuse Européenne, 10 rue Monsieur le
Prince, salle Alphonse Dupront)

本研究二年目に途中経過報告として、以下
の学会で発表をした。

「文学価値の創出 17世紀フランスに
おける出版免許と国王秘書官の役割」(2012
年11月24日、日本フランス語フランス文学
会中国・四国支部大会、鳥取大学)

その他の成果一覧

東京大学附属図書館所蔵マザリナード・コ
レクションのうち、Bコレクションの再マイ
クロ化を実現し、ジャンセニスム運動に関係
する『赤裸々なる真実』関連文書を入手・参
照した。これにより、ジャンセニスムとマザ
リナードの関連を跡づけ、比較検討が可能と
なった。また、耐久年数の限られたマイクロ
フィルムを複製することで、今後の利用に供
することに貢献した。

平成20-21年度科研費(若手研究(B)(課
題番号:20720092))を用いて、一橋大学付
属社会科学古典資料センターにて「マザリナ
ード展示」会を催したが、その際のパンフレ
ットに修正を加えて発表した。修正版は同セ
ンターのインターネットサイトにて一般公

開されている。また紙媒体でも入手可能である。

論文あるいは著書として発表した成果に関しては、以下で報告する。

5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

[雑誌論文](計 2 件)

野呂 康、「「モデル小説」の射程 十九世紀末の奇書『チュチュ』の執筆、出版と読解」、国際センター、岡山大学教育開発センター、岡山大学言語教育センター、岡山大学キャリア開発センター『大学教育研究紀要』、査読有、No.8、2012、pp.163-178.

<http://ousar.lib.okayama-u.ac.jp/metadatas/49298>

野呂 康、「マザリナードの記述」、成城大学法学部『教養論集』、査読有、2010、no.22、pp.121-135.

<http://www.seijo-law.jp/faculty/public/info/kyouyou/022.php>

[学会発表](計 8 件)

野呂 康、「歴史を記述し、伝えること『覚書(メモワール)』の行為と作用」、羽田正科研(「ユーラシアの近代と新しい世界史叙述」、第4回「翻訳」研究会「史料を行為と作用から見る」にて、2013年10月20日、東洋文化研究所

野呂 康、「フランスにおける『アウグスチヌス』の再版と『頻繁なる聖体拝領』の出版」、パスカル研究会、2013年11月16日、大阪大学

Yasushi NORO, 《Après les premières luttes jansénistes : controverses》Ecole des Hautes Etudes en Sciences Sociales, 2013年03月21日, 特別講演会(招待講演), Centre d'Anthropologie Religieuse

Europeenne, 10 rue Monsieur le Prince, salle Alphonse Dupront.

Yasushi NORO, 《La réimpression de l'*Augustinus* et la publication de *De la fréquente communion*》, Groupe de recherches interdisciplinaires sur l'Histoire du littéraire, 2013年03月12日(招待講演), Université Paris III.

[図書](計 3 件)

GRIHL(著) 嶋中博章、中畑寛之、野呂 康(共訳と執筆)Tiré-à-part、『GRIHL』、2013、123p.

クリスチアン・ジュオー(著)嶋中博章、野呂 康(共訳) 水声社、『マザリナード 言葉のフロンティア』、2012、370p.

クリスチアン・ジュオー(著)嶋中博章、杉浦順子、中畑寛之、野呂 康(共訳と執筆) 水声社、『歴史とエクリチュール 過去の記述』2011、304p.(pp.205-304).

[その他]

ホームページ等(計 4 件)

<http://yasushinoro.web.fc2.com>

<http://grihl.ehess.fr//index.php?424>

<http://haneda.ioc.u-tokyo.ac.jp/eurasia/201310204.html>

<http://gensha.hit-u.ac.jp/news/event.html#20130928>

6. 研究組織

(1)研究代表者

野呂 康(YASUSHI NORO)

岡山大学・言語教育センター・准教授

研究者番号: 70468817